今年度からスタートした第6次小田原市総合計画。本市が目指す、2030年の姿「世界が憧れるまち“小田原”」の実現に向けまちが育っていく–GROW–ようすをお伝えする、広報小田原特別編「GROW」。7つの重点施策を年4回に分けて特集します。

GROW

広報小田原特別編

7つの重点施策

1. 医療・福祉
2. 防災・減災
3. 教育・子育て
4. 地域経済
5. 歴史・文化
6. 環境・エネルギー
7. まちづくり

「環境・エネルギー」「まちづくり」

ー 豊かな環境を継ぐ持続可能なまち、地域の特性を生かすまちへ ー

「環境・エネルギー」分野では、小田原産木材を利活用する事業や、脱炭素社会の実現に向けた再生可能エネルギーに関する取り組みを紹介。
「まちづくり」分野では、市民とともに進められているまちづくりのようすや、新たなまちづくり組織として設立した「アーバンデザインセンター小田原」についてお知らせします。

|2-3| 小田原産木材を活用した「学校木の空間づくり」
|4-5| 本市が目指す「地域エネルギーシステム」
|6-7| 市民と進めるまちづくり
| 8 | アーバンデザインセンター小田原（UDCOD）を設立

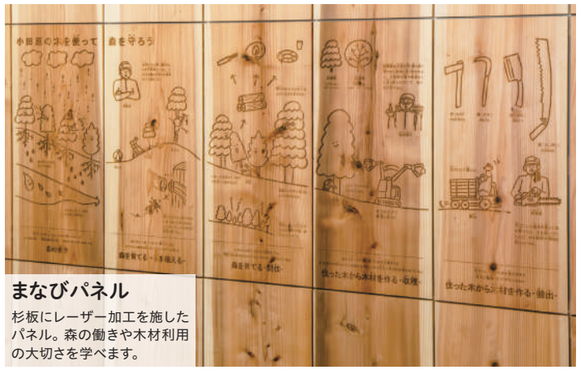
4/4
SPRING

木のぬくもりで教育・学習環境を向上

小田原産木材を活用した「学校木の空間づくり」

市では、公民連携による環境課題への対応や森林整備などの施策を進め、多くの人に小田原の森里川海に触れる体験をしてもらうことを目指しています。小田原産木材の利活用促進や教育・学習環境の向上などを目的とした「学校木の空間づくり事業」もその一環です。公共施設の中でも木質化適正の高い小学校から順に、内装木質化を進めています。

西昇降口
自然素材のカーペットの上に小上がりとひのき机、スツールを配置。地域に開かれた憩いの場としても活用されています。



まなびパネル
杉板にレーザー加工を施したパネル。森の働きや木材利用の大切さを学べます。

ミラクルラボ
木製のベンチやスツールを配置。ICT教育に対応する多目的空間に。

廊下

児童の居場所をぬくもりのある空間に

豊川小学校では、普通教室や廊下など、児童が日常を過ごす空間を重点的に木質化して教育環境の改善効果を最大に。児童がどこにいても木のぬくもりを感じられるよう、廊下と教室の間仕切り壁を下見板張りや木質掲示板にする他、教材用スペースを木に包まれたポケット空間にするなど、児童の新しい居場所も創出しています。

ポケット空間

地域の木材を使用し、リラックス効果をプラス

大窪小学校では、木製本棚や板張りの本棚、ヒノキを使用した机などが設置され、図書コーナーは木視率（室内を見渡したときに木肌が見える割合）が高く、児童がリラックスして読書を楽しめる空間に改修されました。改修に当たっては、約50年前に住民によって植えられた大窪財産区の木材が主に使用されています。

財産区の森林

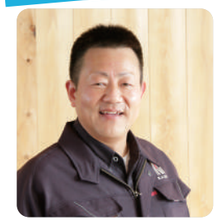
図書コーナー

地域の伝統技術を生かした教室サイン

「学校木の空間づくり事業」を実施した学校の教室サインは、（一社）箱根物産連合会所属の若手職人団体「いぶき会」と協力して製作しています。木象嵌、ロクロ、寄木細工といった小田原・箱根地域が誇る木工技術を用いており、多種多様な技術とデザインの豊富さ、そして地域の素晴らしい木の文化に触れられます。

新玉小学校木質化のポイントについて

施工者の加藤さんに伺いました！



市建築事業協同組合
代表理事　加藤諭さん

木の風合いの変化を楽しんでほしいです

改修に当たっては、木の収縮が起きてもズレが生じないよう隙間やくぎの間隔を調整するなど、先を読みながら工夫しました。木の特徴をよく理解することが、施工において大切なことだと感じています。

新玉小学校の「フェニックス（旧郷土資料室）」では、舞台や壁面にヒノキ材を使っていますが、小田原でこれだけ良質な木材がとれるということを、ぜひ知っていただきたいですね。木は時間がたてば強度が出たり風合いもよくなったりしますので、児童の皆さんには、6年間を通して木の変化を楽しんでいただきたいと思います。

児童・校舎・木材のことを考え木質化しました

ロスを抑えて無駄なく小田原産木材を利用するだけではなく、小学校の歴史や記憶を尊重して、児童をはじめ地域の人も親しみが持てるものになるよう心掛けました。

▲多目的教室フェニックス（旧郷土資料室）

小田原の森林や木について

森林組合の佐藤さんに伺いました！

市森林組合
佐藤健さん

小田原にある豊かな森林を有効活用

小田原の山には、先人たちが植え、育てた樹齢50～60年のスギやヒノキがふんだんにあります。その木材の利用拡大をしたいということで取り組んでいるのが、「学校木の空間づくり」です。地元の木を有効活用していただけるのはもちろん、我々森林組合や森林所有者の皆さん、材木屋、工務店などが協力し合っているということも、このプロジェクトのポイントではないでしょうか。

小田原には豊かな森林がありますが、まだ手入れがされていない場所もあるので、水を豊かにし山地災害を防ぐなどの森の役割が十分に果たせるよう、間伐などの手入れもどんどん進めていきたいと考えています。

脱炭素社会に向けた地域のカタチ

本市が目指す「地域エネルギーシステム」

2050年の脱炭素社会の実現に向け、国内外でさまざまな取り組みが行われています。市では二酸化炭素（CO_2）の削減に有効な再生可能エネルギーの導入を促進しており、地域全体で再生可能エネルギーを有効活用する「地域エネルギーシステム」の構築を目指しています。そしてこの取り組みを土台に、デジタル技術を活用して脱炭素を実現する「ゼロカーボン・デジタルタウン」の創造に取り組みます。

脱炭素社会（カーボンニュートラル）とは？

脱炭素社会とは、CO_2などの温室効果ガスの大気中への排出量と吸収量を均衡させ、実質的な排出量の合計をゼロにした社会のことをいいます。国内でも脱炭素社会に向けた動きが活発化しており、地域での再生可能エネルギー活用の取り組みや脱炭素先行地域づくりを進めるなど、2050年のカーボンニュートラルの実現を目指してさまざまな施策が講じられています。

地域エネルギーシステム

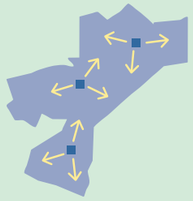
再生可能エネルギーの余剰を地域全体で活用

脱炭素社会の実現に貢献！

再生可能エネルギーを無駄なく地域全体に最大限導入していくことで、脱炭素社会の実現に貢献していきます。

暮らしの利便性の向上と付加価値の創出

インフラ整備により生活の利便性が向上。また、余剰電力供給に応じて発行されるクーポンなどで、地域経済の循環を促進します。



地域配電網の受け入れ余地を高め、無駄なく活用

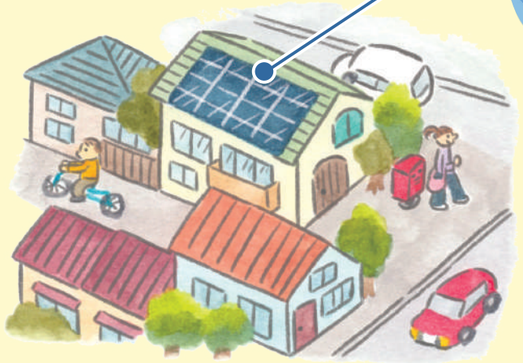
エネルギーマネジメント

つなぐ

分散している発電・蓄電・配電設備を地域レベルでコントロール

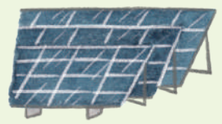
市内にある太陽光パネルや蓄電池、EV（電気自動車）などの発電・蓄電・配電設備の一つ一つが、地域全体のエネルギーシステムの構成要素となり、それをコントロールしていきます。

つくる



一般住宅

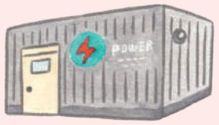
地上設置太陽光パネル



地域エネルギーシステムにより、日中に使い切れなかった再生可能エネルギーも、地域内の必要な場所に届けられます。あなたの太陽光発電設備が、“地域の発電所”になります。

ためる

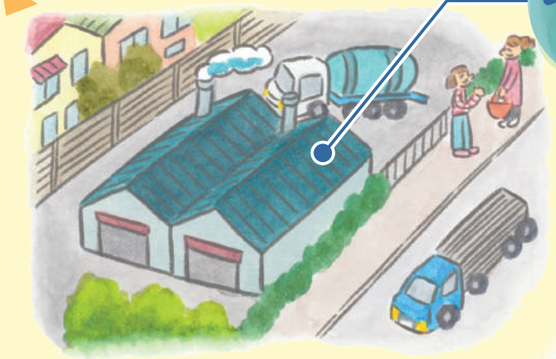
蓄電池



EVステーション

蓄電池や EVは、再生可能エネルギーをためて、効率よく活用する手助けをしてくれます。これに加え、地域全体のエネルギーのバランス調整にも貢献。“地域の蓄電所”としての新たな活用です。

つかう



工場などの事業者

EVステーション

地域全体のエネルギーマネジメントをすることで、再生可能エネルギーはより使いやすくなります。再生可能エネルギーを使うことで、EVや地域のサービスに“CO_2を排出しない”という価値が加わります。

脱炭素社会の実現に向けた市の先進的な取り組み！

小学校での蓄電池の群制御

小学校の太陽光発電設備を小さな発電所に見立て、蓄電池の一斉放電により、使用電力が最も多い時間帯に、電力使用量の削減などをしています。

エネルギーインフラとしてのEV

ＥＶカーシェアリングサービス「eemo（イーモ）」と連携し、EVを車両として、そして地域エネルギーインフラの一部「動く蓄電池」として活用しています。

地域マイクログリッドの構築

一定規模のエリアで再生可能エネルギーの自律運用を行う「地域マイクログリッド」を、小田原こどもの森公園わんぱくらんどに構築しました。

TOPICS

環境省の脱炭素先行地域に選ばれました！

脱炭素先行地域とは、2030年までに民生部門（「家庭部門」および「業務その他部門」）の電力消費に伴うCO_2排出の実質ゼロを実現し、運輸部門や熱利用なども含めた温室効果ガス排出削減についても、地域特性に応じて実現するモデル地域のことです。本市の目指す地域エネルギーシステムの事業を提案し、選定されました。

「ゼロカーボン・デジタルタウン」構想

本市は令和4年度から、「ゼロカーボン」と「豊かな暮らし」の両立をデジタル技術によって実現する新しい街「ゼロカーボン・デジタルタウン」の創造に挑戦し始めました。小田原少年院跡地を候補地として、「データを活用した住民福祉の向上」「人と都市に優しい環境配慮型交通の徹底」など、さまざまな構想を実現するため取り組んでいます。

市民と進めるまちづくり

市では、市民や事業者、関係団体など、多くの皆さんと一緒にまちづくりを進めています。
その中の一つである「市民会館跡地等活用事業」で行われた市民協働のようすをお伝えします。

市民や事業者との意見交換会などを開催

市民会館跡地などの活用について、市民や事業者の皆さんとの意見交換会（4回・延べ40人参加）を開催。この他、「地域子育てひろば」でのヒアリング、大学のゼミと連携したワークショップなどを実施し、さまざまな人からご意見をいただきました。市では今後も、若者や女性をはじめ、多くの皆さんの視点やアイデアを生かしながら、小田原の未来図を市民の皆さんと共有していきます。

意見交換会について
ファシリテーターに伺いました！

楽しみながらまちと関われる場

ファシリテーターとして関わる中、小学生から高齢の人まで、幅広い世代の小田原に対する思いを感じた他、市の施策の一端も知ることができ、とても有意義でした。こうした場があることで、皆さんのまちづくりへの関心度はさらに高まると思います。

法政大学 社会学部（取材当時）
羽染徹（はそめ）さん

テーマ
子ども

河本望花（みか）さん

普段遊んでいた公園のブランコが、気付くと小さな子ども（3～6歳）用に替わっていました。「大きな子どもでも遊べる場所が、もっとあるといいのに……」と思っていたときに母からこのイベントを教えてもらい、参加しました。クラスメイトにどんな遊び場が欲しいかを事前に聞き、その意見を絵にしてみました。老若男女問わず、いろんな人が楽しめる場所になってほしいです。

あったらいいな！ **あらゆる人が楽しめる空間**

テーマ
観光

野添幸太さん

市民会館跡地などの活用について観光の観点から提案したいと思ったことが、参加の動機です。

整備予定エリアは、海につながるにぎわいの散歩道、そして、みんながビジネスを生み出す場所になってほしいです。ワークショップでは参加者の皆さんが積極的で、さまざまなフィードバックがありました。こうして市民がまちづくりへ参画できることに、大きな意義があると思います。

あったらいいな！ **回遊性とビジネスを生み出す空間**

市民の皆さんからたくさんの意見がありました

あったらいいな！こんなスペース♪

イベント関係	•朝市、古本市、音楽フェスの開催 •マルシェやフリーマーケットの開催
食関係	•コンテナレストランやカフェ •キッチンカーの誘致
歴史・文化	•小田原城が見えるよう高さに配慮 •城下町の風情を感じる施設

意見交換会などを踏まえて策定

意見交換会などから得られたさまざまな意見やアイデアを踏まえ、「市民会館跡地等活用計画」を令和5年3月に策定。令和5年度は、この計画に基づき、引き続き市民や事業者などを対象としたワークショップなどを開催し合意形成を図りながら、整備に向けた基本構想や基本計画の策定などをしていきます。

市民会館跡地等活用事業
今後のスケジュール

令和5・6年度		令和7年度
基本構想	基本計画・基本設計	整備事業（予定）

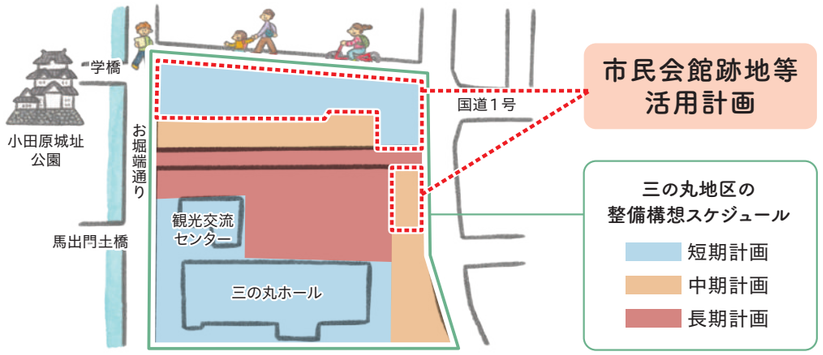
「市民会館跡地等活用計画」とは？

将来のまちづくりビジョンとして策定した「三の丸地区の整備構想」で示す短期計画のうち、これまで令和3年7月に観光交流センター、9月に三の丸ホールが開館しました。

令和4年度からは、旧市民会館除却後の跡地をはじめ、本町臨時駐車場、市土地開発公社の用地を整備エリアとして、土地の有効活用を図るため、市民会館跡地などの活用に係るコンセプトや基本方針などをまとめました。

活用コンセプト
まちのリビング
まちなかでの新しい過ごし方を創出する

▲ 詳しくはこちらから



三の丸地区の整備構想　公民連携による将来像の実現

● 三の丸整備地区の役割
- 観光交流の促進と回遊性の向上
- 滞留空間の形成と市民ホールの連携
- 歴史・文化とにぎわいが調和したまちなみの形成

● 整備の方向性
- 文化の創造・憩いの場の形成
- 交流の促進（市民会館跡地等活用）
- にぎわいの創出
- 歴史的な環境整備
- デザインコントロールと天守閣への眺望確保

アーバンデザインセンター小田原（UDCOD）を設立

まちの課題が複雑化する今、行政だけで課題を解決することが難しくなっています。そこでアーバンデザインセンター※を設立し、「課題解決型＝未来創造型」のまちづくりを進めていきます。

※令和5年1月時点で、全国23の拠点で展開されています。

令和5年4月から本格スタート！

アーバンデザインセンター小田原は、地域社会に必要な公的サービスを担う「公共」、市民活動や経済活動を通じて地域の魅力と活動の向上を担う「民間」、専門知識や技術を基に先進的な活動を担う「大学」などが日常的・多面的に連携し、まちの未来を描き実践していくエンジンとしての役割を担います。

複雑化するまちの課題を解決し、まちの魅力をさらに高めるため、地域資源を生かしたまちづくりの調査・研究を行います。

アーバンデザインセンター小田原

公・民・学の連携

研究・分析

研究例
- ◆小田原のまちが歴史的にどのようにできてきたか
- ◆居心地がよく、歩きたくなるまちなかとは　など

実証実験

他市のUDCの事例

市民参加型ワークショップの開催

まちの魅力発信

相談・情報提供など →

← 提案・助言

民間や市の事業
地域の課題や要望

↓

事業に反映

↓

複雑化する地域課題を解決

アーバンデザインセンター小田原 創設の背景・理念について センター長に伺いました！

アーバンデザインセンター小田原
センター長
杉本洋文（ひろふみ）さん

新たな都市の価値を創出します

小田原は歴史・文化が蓄積したまちです。城下町と宿場町といった2つの特色を併せ持ち、「なりわい文化」や「邸園文化」が残るまち並みも、小田原の個性を引き立たせています。近年は「ミナカ小田原」などを例に、公民連携による拠点整備が進められるとともに、新たなまちづくり活動が行われています。こうした今だからこそアーバンデザインの視点でまちなかの資源（人・もの・情報）をつなぎ、さらなる価値を創出することが重要です。

「暮らしてよく、訪れてよい、豊かな交流が育まれるまち」――それが、私たちアーバンデザインセンター小田原が目指す姿です。

発行 小田原市　編集 広報広聴室　0465-33-1261 FAX 0465-32-4640
©小田原市2023-4